TOYAMA CITY HOSPITAL MAGAZINE

きよら

No. 113
2024年7月号

富山市民病院マガジン「きよら」

●題名の「きよら」は病院の清潔なイメージや医療の透明性、そして心の美しさを表し、柔らかでやさしい書体はやすらぎと信頼を表現しています。
●写真については、広報用にマスクを外して撮影しているものがあります。

特集

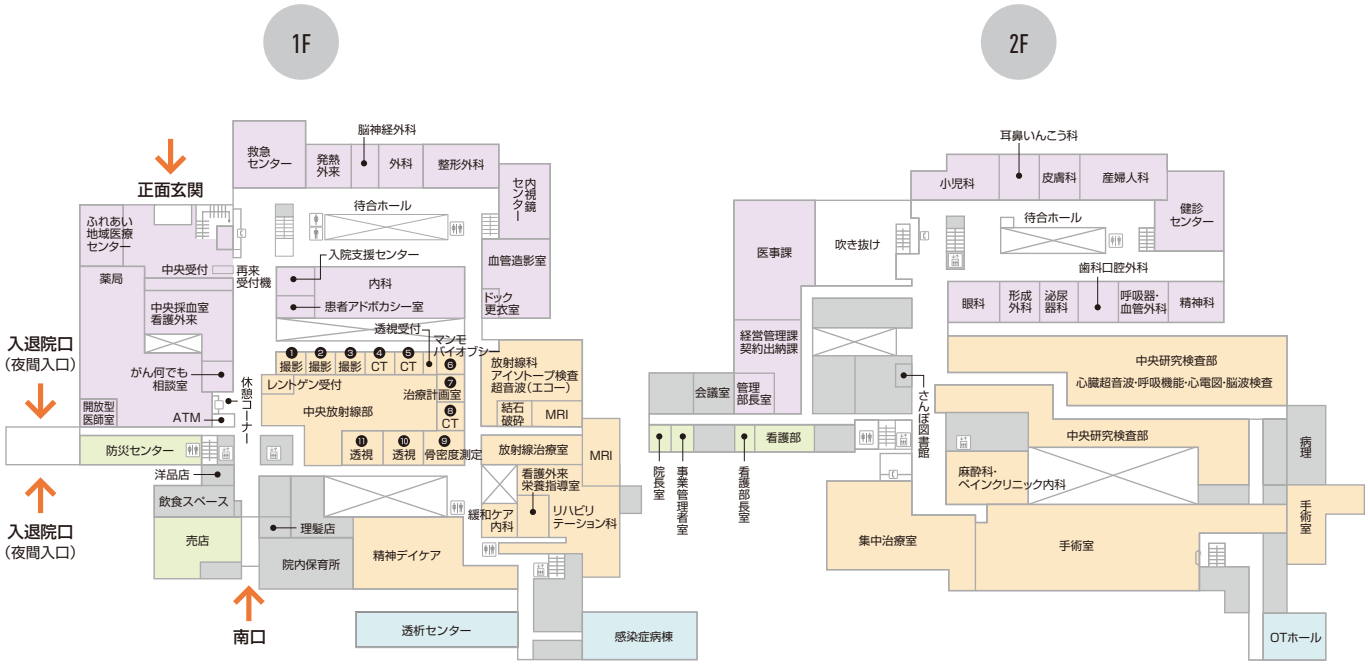
富山市民病院に新院長就任
手を携えて、前へ ―

特集

新部長からのメッセージ

Floor Guide

案内図



	外来診療棟		西病棟	東病棟	南病棟	
8F			心臓リハビリテーション室	病室　東801～827		8F
7F			病室　西701～723	病室　東701～725		7F
6F			病室　西601～621	病室　東601～625		6F
5F			病室　西501～526	病室　東501～527		5F
4F			病室　西401～426	4階リハビリテーション 治験支援センター	病室　南401～425	4F
3F		講堂 図書室 医局	病室　西301～320	病室　東301～321 外来治療室	病室　南301～321	3F
2F	管理部長室 経営管理課 契約出納課 医事課	呼吸器・血管外科 小児科 耳鼻いんこう科 皮膚科 産婦人科 精神科 歯科口腔外科 泌尿器科 形成外科 眼科 健診センター	事業管理者室 院長室 看護部長室 看護部	検査部 麻酔科 ペインクリニック内科 集中治療室 手術室 医療マネジメント室 感染防止対策室	活動療法棟 OT ホール	2F
1F	玄関ホール 総合案内 中央受付 ふれあい地域医療センター 中央採血室 看護外来 薬局 がん何でも相談室 開放型医師室	救急センター 発熱外来 脳神経外科 外科・乳腺外科 整形外科・関節再建外科 内科 内視鏡センター 血管造影室 アドボカシー(患者支援)室 医療安全管理室 入院支援センター	売店 防災センター	レントゲン 放射線科(治療・診断) リハビリテーション 精神デイケア 緩和ケア内科 看護外来 栄養指導室	感染症病棟 透析センター	1F
B1F			薬品管理事務室 霊安室 剖検室	中央リネン室 栄養科		B1F

きとら

No.113
2024年7月号

Contents

特集 Special Feature

富山市民病院に新院長就任 手を携えて、前へ ―

［インタビュー］ 富山市病院事業管理者／石田 陽一 医師
富山市民病院　院長／家城 恭彦 医師
富山まちなか病院　院長／瀬川 正孝 医師 02

特集 Special Feature

新部長からのメッセージ

［インタビュー］ 内科部長、皮膚科部長／大田　聡 医師 08
麻酔科部長／松浦 康荘 医師 10
ペインクリニック内科部長／本田 康子 医師 11
乳腺外科部長／馬渡 俊樹 医師 12
病理診断科部長／濱島　丈 医師 13
歯科口腔外科部長／朽名 智彦 医師 14

Topics

病院機能評価の認定を受けました
「看護の日・看護週間」のイベントを開催しました 15
特定行為研修　開講式を行いました
「新人1か月フォローアップ研修（ボクササイズ体験）」を行いました 16
前富山市民病院長の藤村隆先生へ名誉院長の称号が贈られました
富山市民病院の売店が移転しました
富山市民病院　夏休みわくわく職業体験の参加者を募集します 17

発　行
富山市立富山市民病院
広報委員会

〒939-8511
富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112
FAX. 076-422-1371
https://www.tch.toyama.toyama.jp/

Toyama City Hospital
富山市立富山市民病院

Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構

特集

富山市民病院に新院長就任 手を携えて、前へ ―

2024年4月、富山市民病院の新院長にこれまで副院長を務めてきた家城医師が就任した。2022年から富山まちなか病院の院長として改革を進める瀬川医師、さらに、2019年より病院事業管理者として富山市の病院事業を取りまとめる石田医師とともに、両院の連携体制など、今後の展望を語ってもらう。

新院長はどんな人？

Q. 家城院長のご専門やプロフィールを教えてください。

家城 私は内科（内分泌代謝内科）医で、糖尿病を中心とした生活習慣病や内分泌代謝疾患を専門領域としています。富山市民病院には在籍9年目で、昨年1年間は副院長を務めていました。

Q. 現在の富山市民病院の概要についても、改めてお願いします。

家城 1946年に開院した当院は、人口約50万人の富山医療圏において、高度急性期・急性期医療を担う中核病院です。現在35の診療科で、それぞれの専門性を最大限に発揮しつつ、連携して診療にあたっています。

救急医療においては、二次救急輪番体制の一翼を担い、「断らない救急」を合言葉に、日々多くの救急患者さんを受け入れています。特に、小児救急はここ数年で集約化が進んだため、当院の存在感が増しているかと思います。

また、災害拠点病院として、日頃からドクターヘリで搬送される患者さんを診療しているほか、専門的な訓練を受け、機動性を備えた医療チームである

DMATを2班、医療救護班を3班編成し、災害時の救命医療や広域搬送等に備えています。本誌112号でも紹介したとおり、今年元日に発生した能登半島地震の被災地に、当院からDMAT隊員を派遣したことは記憶に新しいところかと思います。

Q. 家城院長は、ご自身の持ち味をどのようにお考えですか?

富山市民病院内観

家城　私は「俺についてこい」というタイプではありませんし、理詰めで説き伏せるのも自分らしくないと思っています。共感を大切に、信頼関係を築いていくことが自分の持ち味であり、院長としてスタッフの意見にしっかり耳を傾け、それをもとに自分の考えを作って共有していくようなリーダー像を描いています。

藤村前院長が築いてこられた、チーム一丸となって目標を達成する精神を私も受け継ぎ、一歩一歩前へあゆみを進めていく所存です。

3年目の富山まちなか病院長

Q. 瀬川院長は、富山まちなか病院の院長に就任されて3年目となりますね。これまでの歩みとともに、病院の特色をお聞かせください。

瀬川　富山まちなか病院は、全床が「地域包括ケア病床」となっています。「地域包括ケア病床」とは、急性期治療を終えた患者さんが住み慣れた場所で元の生活に戻れるように、サポートする病床です。

3年前に私が院長を引き継いだ時点では、厚生労働省が認可する地域包括ケア病棟入院料のランクが2だったのですが、最上位の1に引き上げられました。病院がしっかりと機能し、社会や患者さんから期待されていることを実現できている結果だと受け止め、今後もそれを持続していかなければいけないと思っています。

富山まちなか病院内観

市民が求める医療を的確に提供し続ける

Q. この二つの病院事業を管理するのが富山市病院事業管理者なのですね。

石田　はい。富山市は、病院事業として富山市民病

院と富山まちなか病院を運営しています。医療法人であれば、複数の病院を経営しているケースも少なくありませんが、自治体として都市部に二つの違う役割を担う病院を構え、それが連携しているという例は珍しいと思います。

市立病院の役割は、その時代ごとに変化する医療需要に応じて、市民に必要な医療を的確に提供することです。まちなか病院は、旧富山逓信病院時代の急性期病床から回復期病床へと転換を進めてきました。一方、市民病院は、最後まで自分で診てあげたいという医師もいるとは思いますが、急性期に特化し回復期医療は次へまかせる、という方向で理解が進んでいると感じます。

繋がっているという安心感

Q. どちらかの病院にかかれば、引き継ぎもスムーズですね。

家城　患者さんをまったく手放してしまうのは心配だと感じる市民病院の医師も、まちなか病院であれば繋がっている安心感がありますし、これは患者さんにとっても同じことが言えると思います。シームレスな医療だからこその安心感ですね。

地域の〝かかりつけ医〟として

瀬川　今、家城先生のお話にあったように、市民病院などで急性期医療を受けて、いよいよ退院となったけれども「ちょっと在宅生活に戻る自信がない」、「すぐには帰れない」という方のリハビリテーションなど、回復期医療はまちなか病院の得意分野です。医師をはじめ看護師、リハビリテーションスタッフ、医療社会福祉士等が協力し、復帰に向けた診療や支援を行います。

また、通院が難しい方のために、訪問診療や訪問リハビリ、訪問看護、訪問栄養指導、在宅患者訪問薬剤管理指導といった在宅医療も提供しています。

さらに、まちなか病院に行けば何とかしてくれるという地域の〝かかりつけ医〟機能も果たしています。亜急性期の外来診療を提供しながら、急性期医療が必要な重症患者を見極め、市民病院等の急性期病院にスムーズに搬送します。

民間病院と公立病院の違い

Q. 役割を分けることで、それぞれが輝きを増したということでしょうか。

石田　そうですね。民間の医療法人であれば、利益の見込めない事業には手を出しにくいですが、公立の場合は、例え赤字でも市全体のことを考えて事業を行う必要があります。そして病院事業管理者の立場としては、市民の皆さんの健康増進に寄与するとともに、医療を通じて富山市に何らかのメリットをもたらしたいと考えています。

医療圏全体の機能向上に寄与

Q. 健康増進や地域貢献について、両院ではどのような取り組みをされていますか？

家城　市民病院では、「ふれあい健康講座（※裏表紙参照）」や出前講座などを通して、市民のみなさ

んに医療の正しい知識を広め、健康への意識を高めてもらう啓発活動を長く続けています。

また、地域医療支援病院として、高額医療機器や施設設備、開放型病床などを地域の診療所にご活用いただいたり、合同カンファレンスや研修会を実施したりして、医療圏全体の医療機能向上のため、地道に取り組んでいます。

健康増進は地域貢献

瀬川　医療費を抑えるためにも、市民の充実した人生を守るためにも、ご自身の足で歩くことや、気力や体力をなるべく維持するサポートが重要視されています。普通の生活を長く続けていただくためには、病気ではないけれど、加齢によって筋力や心身の機能が衰え始める「フレイル」の状態を放っておかないことがポイントです。

当院が行う訪問診療を通して、また、訪問診療に力を入れているクリニックや介護施設との連絡を密にすることで、フレイルに陥りそうな方が見つかれば、いち早く介入し元の生活に戻れるように支援しています。

行動力が光る瀬川院長

Q. 先ほど家城院長にもお聞きしましたが、瀬川院長はご自身をどんなタイプだと思われますか?

瀬川　私は分かりやすく言えば体育会系といいますか、物事にいち早く白黒つけて、納得したほうに早く動きたいタイプの人間だと分析します。それが長所でもあり、短所でもあると思っています。

まちなか病院では、80~90人のスタッフが働いているのですが、バラバラなことをしているように思うところがあり、今年に入り20のグループを作り、それぞれにプロジェクトを担ってもらいました。

忙しい中でも一生懸命各テーマに取り組んでくれた結果、それまで運用がうやむやになっていた業務、正当に評価されず埋もれていた業務を掘り起こし、明確にすることができました。成果が上がるかはこれからかもしれませんが、少なくともお互いの仕事を理解する有意義な機会になったと感じています。

Q. 石田管理者は、お二人の人柄をどう見ていらっしゃいますか?

石田　瀬川院長については、まさにご自分でおっしゃったように、私はその行動力を買っています。2019年に富山逓信病院から富山まちなか病院に生まれ変わり、黎明期を経て、今は物事を先送りせず、積極的に前進させていく時期だと捉えています。そうした時期に、瀬川院長が先頭で引っ張ってくれていることは大変ありがたく、また期待もしています。

仲間から慕われる家城院長

Q. 家城院長についてはいかがですか?

石田　大きな組織をまとめるのに、チームワークは欠かせません。家城先生は「この人と一緒に仕事をしたら楽しいな」と思わせてくれる、仲間から慕われるリーダーだと思います。マラソンを趣味とされるスポーツマンでもあり、個人としても困難を乗り越えていく力をお持ちですから、現在の富山市民病院の院長に適任だと考えています。

Q. 人選に心を砕かれていることがよく分かりました。

石田　どのようなタイミングやシチュエーションに、どのような人材をマッチさせるかは重視しています。近年、病院事業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しており、働き手不足が課題となっています。リーダーに限らず、足りなくなることが予想される職種を過不足なく採用していく計画性も大事です。そし

て、縁あって仲間になったスタッフをどう育てていくかということは、さらに重要だと思っています。

キャリアアップの道しるべ

Q. 人材育成の方法についてもお聞かせください。

石田　職場で必要とされるスキルというのは、実際に働く職員にとっては案外曖昧なことが多い気がしていました。自己研鑽が大切なことは言うまでもありませんが、頑張り方が分からないともったいないですよね。

　自分が成長していると感じられることは、誰にとっても大切なことです。ここにいれば成長できると実感してもらうことで、働く意欲が高まり離職も防げると考え、約1年かけて人材育成の仕組みを構築しました。階層型で、次の段階に上がるためには何が求められるのか、その要件は現場の皆さんで作ってもらいました。

　こうして取りまとめた「人材育成基本方針」は、どんな人材に育っていって欲しいのかを明示するとともに、キャリアアップしていく道筋を客観的に示したもので、この仕組みは昨年受審した「病院機能評価（※15ページ参照）」でも高く評価されました。

Q. 富山市民病院は、研修医にとっても良い環境のようですね。

家城　富山市民病院は、医学部を卒業し医師免許を取得した研修医が、基本的な手技や知識を身につけるために経験を積む臨床研修指定病院です。将来、医療を担う人材を育成するため、学ぶ人自身の要望にも柔軟に対応できるプログラムを用意し、積極的に研修医を受け入れています。

Q. 日頃、お三方またその他リーダーの皆さんが一堂に会する場はあるのでしょうか？

石田　はい。週に一回、幹部や事務部門が顔を合わせてミーティングを開いています。あらかじめ用意したシナリオを読み上げる答弁のようなスタイルではなく、もう少しざっくばらんで、風通しの良い集まりです。

　それぞれの持ち場で起こっている問題を相談したり、報告しておきたい事案を共有したり、例えば今年6月の診療報酬の改定にどう対応していくか、抜けがないかなどを再確認したりと、全体で共通意識を持つための時間としています。

有事の際も最前線で闘う病院に

Q. 最後に、読者の方にメッセージをお願いします。

家城　4月から各方面へご挨拶に伺ったり、院内のすべての委員会に出席したりして全体を見渡すという日々を過ごし、改めて身が引き締まる思いです。院長として、引き続き地域住民の皆様へ安心、安全な医療を届けるために、全力を尽くすことをお約束します。

　富山市民病院は、平時はもちろん、有事の際の救急医療、災害医療により一層強い病院を目指し、また、これまで多くの新型コロナウイルス感染症患者さんの診療をしてきたように、新興感染症に対する

最前線の医療機関として役割を果たしていきます。

病院の基本理念に掲げている5つの価値観「信頼」「良質」「思いやり」「つながり」「俊敏」を職員全員で共有し、医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献してまいります。

患者さんとご家族 両方の幸せに役立ちたい

瀬川　ご存じの通りの超高齢社会で、リハビリや在宅医療が必要な患者さん、また老々介護で介護をしきれないご家族も、ますます増えてくることが予想されます。

まちなか病院の役割には、レスパイト機能を担うことが挙げられます。レスパイトとは「小休止」、「息抜き」、「休息」を意味する言葉です。在宅での介護を担っているご家族が、日々の介護に疲れを感じ、ついには介護力の限界を超えてしまうと、結果的に本人の症状は安定しているのに在宅介護が継続不能になってしまいます。在宅で医療機器などを使用している方や、何らかの医療的処置を要する方など、症状は安定しているものの常時の介助を必要とする方が対象となりますが、介護者の休息のほか、病気、入院、出産、冠婚葬祭、旅行などで一時的に在宅介護が困難になる場合に、レスパイト入院を引き受けます。

このように家族を支援して、在宅医療の維持を力添えすることも富山まちなか病院の重要な役割なのです。患者さんはもとより、そのご家族皆さんの幸せのためにお役に立ちたいと思っています。

個性を生かした 切れ目のない医療を

石田　富山市民病院は、地域の基幹病院としてより質の高い急性期医療を提供し、富山まちなか病院は、地域包括ケアの重要なキープレーヤーとして育ってほしいと願っています。個性の違う二つの病院を有機的に結び付け、切れ目のない医療を将来に渡り展開し続けることが果たすべき役割です。

組織力を総合的に高めるためには、これまでもオンラインによる研修や資格試験を取り入れてきましたが、今後はさらにDXを活用し、単純作業や事務処理に要する労力や時間を圧縮することで、患者さんへの直接業務にあてるなど、スマートホスピタル化も進めるべきだと思っています。

また同時に、すべてを自分たちで賄うのではなく、既に地域にある事業や機能を味方につけ、地域の診療所や介護施設との結びつきをもっと強くしていく必要もあるかもしれません。

病院事業は人が主役です。管理者一人では何もできません。スタッフ一人一人への尊敬の念を忘れず、能力やモラール（士気）をいかに高めていくか、人材マネジメントの視点をもって病院事業を推進していきます。

特集

新部長からのメッセージ

この春、富山市民病院には、新院長とともに、新たに6人の診療科部長が就任した。診療科の特色や診療にあたって大切にしていることなどをそれぞれにインタビューする。

内科部長・皮膚科部長
大田（おおた）　聡（さとし）　医師

専門内科が集合する「内科」

Q. 大田先生は内科全体の部長に就かれたとのことですが、内科は専門ごとに分化されているそうですね。

大田　内科と一言で言いましても、当院では、消化器内科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、脳神経内科、腎臓内科に分かれています。各診療科に部長がいるのですが、このたび、私は内科全体の部長に就任しました。

　週一回、内科全体のカンファレンスを開き、一人の患者さんを全体で支えるべく、検討したい症例を持ち寄ってディスカッションを行っています。

富山市民病院で長年診療

Q. 先生のご専門は何ですか?

大田　専門は腎臓内科で、高血圧や糸球体疾患、尿細管間質性疾患、膠原病（こうげんびょう）、腎不全、透析などが専門領域です。当院の腎臓内科に1999年から勤務し、25年になります。

Q. その間の変化をどうお感じになりますか?

大田　少子高齢化で、やはりご高齢の患者さんが増えたという実感はあります。

　専門である腎臓疾患は、加齢や生活習慣によるものが多くなっています。腎機能の低下には早くから対処することが肝心なのですが、初期は無症状のため、健康診断で引っかかっても放置してしまったり、患者さんが仕事等で忙しく、受診の機会を逸してしまったりして、その間に病状が進行してしまうケースがよくあります。

　気が付いた時には、後戻りできない状態だったということがないよう、血圧や血糖値が高い、尿にタンパクが出ているなどの指摘を受けた場合は、軽視せずにきちんと受診し、生活習慣の改善を含めた治療の相談をしていただきたいと思います。

正しい情報を提供すること

Q. 先生は、どのようなことを心がけて診察されていますか?

大田　先ほどお話ししたような、特に治療のモチベーションがなかなか上がらない患者さんには、正しい情報を分かりやすく提供することが大切だと思っています。治療の効果が数値として示されると、患者さんもさらにやる気を出していただけるので、私も時に励ましながら、根気強く向き合うようにしています。

内科は病院の要（かなめ）

Q. 内科は、最初にかかることが多い科という印象があります。

大田　そうですね。内科は体調が悪くなった時の窓口になることが多い科ですから、病院の要とも言えます。外科のようなダイナミックな治療はできませんが、理論的に考え、診断を組み立てていき、適切な治療で効果が上がった時には、喜びを感じます。

Q. 窓口として、他科に引き継がれる場合も多いわけですね。

大田　はい。内科自体も細分化されていますし、不調の原因を検討し、適切に他科につなぐことも内科の大切な役割かと思います。私は、皮膚科部長も兼務していますが、糖尿病や膠原病なども皮膚症状と密接な関係があり、連携が欠かせません。

　また、高齢になるほど、複数の病気を抱えていらっしゃる方も少なくありませんので、専門グループが協力しながら、患者さんとそのご家族のために、最善の治療を尽くしたいと考えています。

市民病院の強みを生んだ「麻酔科」

麻酔科部長
松浦 康荘（まつうら こうそう） 医師

Q. 松浦先生の略歴と麻酔科の特色を教えてください。

松浦 私は2012年に当院に赴任し、2015年からペインクリニック内科部長、この春から麻酔科部長に就きました。

麻酔とは、安全に手術を行えるよう、患者さんの手術中の全身状態維持を目的とする医療行為で、痛みを感じなくさせストレスから体を守ることでもあります。

当科では、高齢者に多い大腿骨近位部骨折（だいたいこつきんいぶこっせつ）の患者さんに対する受傷から48時間以内の手術を標準化するなど、できるだけ早期に治療が進むよう各診療科からの麻酔依頼に応えています。「手術麻酔」と「痛み治療（ペインクリニック）」、そして「無痛分娩」を3つの柱とし、さらに栄養管理や治療のための中心静脈カテーテル挿入の依頼にも対応しています。

「無痛分娩」ニーズに応えたい

Q. 市民病院は無痛分娩ができることでも注目されていますよね。

松浦 コロナ禍の受診控えなどで手術件数が減った時期に、ニーズが増えつつあった無痛分娩にさらに力を入れていくことを提案し、無痛分娩の時間外対応を開始しました。当院では、産科医、助産師、麻酔科医が連携することで希望に応えています。

Q. 無痛分娩の難しさは、どんなところにあるのですか?

松浦 無痛分娩を可能にするのは、脊髄を包んでいる膜である硬膜の外側にカテーテルを挿入し局所麻酔薬を注入する「硬膜外麻酔（こうまくがいますい）」です。

硬膜外麻酔やカテーテル挿入は、麻酔科医は手術麻酔でも普段から行っていますが、無痛分娩に用いる場合は、カテーテル位置の微妙なずれなどが原因で、麻酔の効き方にむらが生じ効果が不十分になることがあり、その都度カテーテルの微調整や入替えが必要かを判断します。

また、分娩の進み具合による陣痛の強さや痛みを感じる部位の変化に合わせ、麻酔薬の投与ペースを変えたり、追加投与をしたりする必要があります。手術室での全身麻酔管理業務も行いながら、病棟の助産師や産科医と連携をとり麻酔薬の調整を行っています。

Q. 無痛分娩はどの位増えているのでしょうか?

松浦 認知度の向上もあり、現在は当院で出産する妊婦さんの半数以上が無痛分娩を選択されます。年間60～70件だった2～3年前と比べても3倍近くに増えています。富山県内の無痛分娩が実施可能な医療機関の中で最も多く、今や「無痛分娩と言えば富山市民病院」という強みになっていると思います。

Q. 症例数が増えると、どんなメリットがありますか?

松浦 無痛分娩も医療行為である以上、いくらかの副作用や合併症が起こる可能性はあります。症例数が多いほど、起こり得る事態を想定しやすくなり技術も熟練されるので、安全性が高まると考えられます。

ただ、「無痛」と言いましても手術麻酔とは違います。自分の力でいきむことが出来、子宮が収縮してお腹の張る感覚、赤ちゃんが生まれてくる感触もしっかり味わうことが出来る程度に麻酔をしますので、痛みがゼロではないことをご理解ください。

安全で、手術しやすい環境を

Q. 読者の皆さんへメッセージをお願いします。

松浦 患者さんが安全に手術を受けられるように、手術後の痛みが少なくなるように、外科医が手術しやすいように環境を整えてまいりますので、安心してご来院ください。

“痛み”の専門外来「ペインクリニック内科」

ペインクリニック内科部長
本田（ほんだ） 康子（やすこ） 医師

Q. まず、ペインクニック内科の特色を教えてください。

本田 ペインクリニック内科とは、ペイン（＝痛み）の緩和を専門とする診療科です。神経ブロック治療や薬物療法、認知行動療法的アプローチ、運動療法といった、様々な方法で痛みを緩和し、患者さんのQOL（＝生活の質）の維持・向上を目指しています。

Q. どんな患者さんがお見えになりますか?

本田 一番多いのは、帯状疱疹後の神経痛でしょうか。どの程度痛みが続くのか、また痛みの感じ方にもかなり個人差があります。

そして、若い方にも多い悩みが頭痛です。まずは頭の中に重大な病気が隠れていないかを調べる必要がありますが、慢性頭痛にも、片頭痛（へんずつう）や緊張型頭痛、群発頭痛（ぐんぱつずつう）などいろいろなタイプがあり、背景にある原因も人それぞれです。

Q. 先生は最初からこの科に勤められたのですか?

本田 いいえ。富山市民病院に赴任したのは2022年のことでしたが、それまでは麻酔科医として手術麻酔に携わっていました。今でも手術麻酔なども担当しながら、ペインクリニック内科の仕事を行っています。

Q. 二つの仕事には、どんな違いがありますか?

本田 麻酔科の仕事は、手術前の説明や術後の容態確認で患者さんとお話しすることはありますが、最も濃密に接するのは、麻酔で眠っていらっしゃる間です。安全に手術ができるように、集中してその状況に向き合うことが自分に向いていると思っていましたが、当科の場合は、患者さんの生活環境などに踏み込んでお話しを聞く必要があることも多いので、その難しさとともに、魅力も感じています。

患者さんの痛みを否定しない

Q. どのようなことを心がけて診察されていますか?

本田 お困りごとにしっかり耳を傾けて、決して痛みを否定しないこと、共感の姿勢を大切にしています。また、痛みを和らげるための様々な治療法をご提供するのですが、薬を使う以外に、生活習慣を見直すことで改善に向かうこともあります。

痛みがゼロにならなくても、その痛みとどう付き合っていくのか、という話し合いやアドバイスも重視しています。

痛みは我慢せずに受診を

Q. 痛みは我慢しなくてよいのでしょうか?

本田 痛みは、身体に生じた異常事態を知らせる警告反応として大切な役割を持っていますが、原因さえ明らかになれば、ただの有害な存在へと変わります。痛みが長く続くことで、より強い痛みや新しい痛みが現れることもあります。そのような状態に陥った時、また陥りそうな時には、身体的、精神的な苦痛を適切に緩和することが最善です。

Q. 最後に抱負をお聞かせください。

本田 毎日外来を開いている総合病院のペインクリニックは、北陸でもそう多くはありません。新しい治療法や新薬も開発されていますし、皆さんの笑顔が戻るように、精一杯お力になりたいと思っています。痛みにお悩みの方は、ぜひ専門科を頼ってみてください。

女性の命を守る「乳腺外科」

乳腺外科部長
馬渡（まわたり） 俊樹（としき） 医師

早期発見で命が救える乳がん

Q. 先生がこのたび部長に就かれた、乳腺外科の特色を教えてください。

馬渡　私は昨年市民病院に赴任し、このたび乳腺外科部長を務めることになりました。

乳腺外科では、乳房に関する症状がある方や、検診で要精査となった方の精密検査を実施し、治療が必要な疾患が見つかった場合は治療を開始します。乳がんや乳腺腫瘤、乳腺炎などの各種疾患に対応し、診断、治療、経過観察などを行っています。

Q. 乳がんは、年々増加していると聞きます。

馬渡　はい。少子化により授乳の機会が減っていることなどを背景に、乳がんは増加の一途をたどり、今や日本人女性にとって最も罹患率が高いがんとなっています。また乳がんは、30～64歳の女性のがんによる死亡原因の第1位です。とは言え、早くに見つかれば高い確率で治せる病気でもあります。

早期発見には、マンモグラフィ（乳房X線撮影）や乳腺超音波（エコー）検査が有用で、当院ではどちらも女性技師が担当しています。診断確定のための組織診は、ほとんどの場合、針を使った小さな傷痕による生検で可能です。

Q. 治療はどのように進められますか?

馬渡　治療方針はガイドラインに沿った標準治療を基本に、個々の患者さんと十分に時間をかけて相談し、決めています。当院には、乳腺疾患を診断・治療するための機器・装置を備えていますし、外科・放射線科・形成外科・病理診断科などの医師がすべて揃っています。また、乳がん看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、リンパ浮腫療法士の資格をもつ看護師もいます。

外科の主治医を中心に、関係科・関係職種が連携して、診断から手術、薬物療法、放射線療法、経過観察など、一貫したチーム医療にあたっています。

さらに、高齢の患者さんは併存疾患があることも多いので、かかりつけ医の先生方とも連携するようにしています。

Q. 早期発見、早期治療が何より大切ですね。

馬渡　乳がんを根治するには、早期に発見し、手術することが一番です。乳がんは自分で発見できる数少ないがんの一つですので、定期検診はもとより、普段からの自己チェックでしこりなどの異常に気づいたら、怖がらずに受診されることをおすすめします。

Q. 余談ですが、先生のご趣味は何ですか?

馬渡　私の趣味は、読書とサイクリングです。患者さんを見ていても、足腰が強い方は術後の回復も早いと感じますので、何らかの運動をすることはおすすめです。

チーム一丸！患者さんファーストで

Q. 外科医として、どんな時にやりがいを感じますか?

馬渡　自分の手でしっかり治療できるのは外科医ならではだと思いますし、やはり患者さんが元気になって退院される姿を見る時が、一番嬉しいですね。

ドクター、コメディカルスタッフあわせてチーム一丸となり、患者さんファーストで診療にあたっていますので、皆さんも是非お気軽に受診してください。

病理診断科部長
濱島（はましま）　丈（たける）医師

冷静さと情熱で答えを出す「病理診断科」

Q. まず、病理診断科の役割についてご説明ください。

濱島　主治医が患者さんの治療方針を決める際、どういう病気なのか、病変はどの程度広がっているのか、またこれまでの治療効果はどうなのかなどを正確に知る必要があります。

そこで、受診や手術の際に病変部分を採取された組織を詳しく調べるのが、私たち病理診断科の役割です。当科では、病理医と臨床検査技師が協力して、臨床医に診断を届けています。

世界一早く顕微鏡画像をデジタルデータ化した病院

Q. 先生は4月に赴任されたばかりと伺いました。富山市民病院の印象はいかがですか?

濱島　私は東京都出身で、齋藤勝彦前副院長の後任として、この春、富山大学附属病院からこちらに赴任してきました。

病理診断科では、組織を薄いガラスに挟んだプレパラート標本を臨床検査技師が作り、それを病理医が顕微鏡で観察し診断を下すことが多いのですが、富山市民病院では、2006年に世界に先駆けて顕微鏡画像をデジタル化し、電子カルテで病理標本を観察できるシステムを稼働していることを知っていました。

院内で情報を共有し、患者さんへの説明にも役立てられていますし、臨床検査技師の皆さんも大変優秀で、診断しやすい環境が整っていると感じています。

Q. 先生は病理医のどんなところに魅力を感じられたのですか?

濱島　私は医師として、正直に後悔なく医療に取り組みたいと思っていました。しかし、研修医のときに、医療の高度化に伴い医師が臨床現場でどれだけ頑張ったからといって、その治療が必ずしも患者さんのためにならないことがある現実に直面しました。

一方病理医の場合は、毎回の判断に大きな責任があるものの、全力で患者さんのために向き合うことができる点が自分の理想に近いと考えました。

それでも過去には、良性なのか悪性なのかを判定し難い腫瘍だった場合、これは自分だけが分からないのか、分からないと言ってよいのか迷いがありました。そのようなときに無理に舵をきるのではなく、「ここまでは分かります」と正直に臨床医へ伝えられるようになったのは、多くの経験を積み、自分の見立てにある程度自信が持てるようになったからだと思います。

常に100%の力を注ぎたい

Q. ご自身の持ち味をどのようにお考えですか?

濱島　病理診断科は病気の診断に特化した科ですが、私は、治療にも深く関わる分子病理専門医でもあります。患者さんのがん組織や血液から取り出したDNAを調べることで、一人一人にふさわしい治療を行うことにつながる時代が目の前となり、これからさらに広がっていくと想定されます。臨床医と協力して患者さんにより良い医療を届けることができるように、知識や経験を活かしていきたいです。

モニター画面を通して患者さんと向き合い、100%の力を注ぎ診断していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

口・顎まわりの治療なら「歯科口腔外科」

Q. 朽名先生には、前回（本誌112号）の特集でもインタビューさせていただきました。この春から歯科口腔外科部長に就任されたということで、改めて市民病院の歯科口腔外科の概要や特色を教えてください。

朽名　当科は、2023年に日本口腔外科学会准研修施設に認定され、新年度から歯科医師3名と歯科衛生士5名で診療を行っています。

むし歯や歯周病、入れ歯などの一般的な歯科治療は行っておらず、歯、歯肉、舌、頬、口蓋、口唇、上下の顎の骨やその周囲に存在する臓器に生じた疾患を治療する診療科となります。

当科で扱う一番多い疾患は、智歯（親知らず）、高齢者や有病者（様々な病気がある患者さん）などの抜歯となりますが、口や顎の中にできる嚢胞や腫瘍などの良性病変、顔や顎の骨折、顎の歪み（受け口や出っ歯）がある顎変形症、口腔がんなど様々な疾患の治療を主体に行っています。

智歯の抜歯や顎変性症の詳しい症状や治療については、前号でも紹介しているので、よろしければ参考に読んでみてください。

歯科口腔外科部長
朽名 智彦 医師

新年度からスタッフが増員 専門医が2名に

Q. 新年度になって診療体制に変更などはありましたか？

朽名　新年度から歯科医師1名と歯科衛生士1名が増員となりました。そのため、予約や手術までの待ち時間が短縮され、より多くの患者さんの診療ができるようになっています。

また、新年度から赴任した歯科医師は、日本口腔外科学会・専門医を取得しており、富山市内で2名以上の専門医が常勤する病院は少なく、当院では安心で安全な口腔外科診療を提供できる体制が整っています。

医療は日々進歩 絶えず研鑽

Q. 今後の目標や取組などをお聞かせください。

朽名　当院に赴任する前、20年間大学病院で口腔外科の基礎から先端医療まで研鑽を積んできましたので、その経験を活かして日々の診療に取り組んでいこうと思います。

また、昨今の急激な医療の進歩やデジタル化に遅れず、新しい医療や技術を取り入れていこうと考えています。

最善の歯科医療のために

Q. 読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

朽名　歯科口腔外科は新年度から新たなメンバーも加わり、スタッフ一同、患者さんに最善の歯科医療を提供できるよう日々の診療に努めてまいります。

口や顎まわりで困ったことがありましたら、富山市民病院の歯科口腔外科を受診していただければと思います。

Topics

01 TOPIC 病院機能評価の認定を受けました

「病院機能評価」とは、国民が安全で安心な医療が受けられるよう、病院組織全体の運営管理や提供される医療について、日本医療機能評価機構という第三者機関が、中立的・科学的・専門的な見地から病院を評価する審査制度です。

一定の水準を満たした病院は、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく日常的に努力している「認定病院」として認められます。

当院は2003年から認定を取得していますが、この度５回目の病院機能評価を受審し、主たる機能の「一般病院２」のほか、副機能として「精神科病院」の認定を受けました。

これからも職員一丸となって、質の高い医療サービスを地域の皆さんへ提供できるよう取り組んでいきます。

02 TOPIC 「看護の日・看護週間」のイベントを開催しました

富山市民病院では、毎年、看護の日・看護週間のイベントとして「健康相談・健康チェック」を開催しています。今年度は５月９日(木)にイベントを開催し、血圧測定・酸素飽和度測定・握力測定・健康相談・パンフレット配布を行いました。

イベントを通して、看護の魅力である「看護の心」、「ケアの心」、「助け合いの心」を知っていただき、また、健康や医療への関心を深めていただければ幸いです。

03 TOPIC 特定行為研修　開講式を行いました

富山市民病院は、2023年２月に特定行為研修の指定研修機関として厚生労働大臣から指定を受け、2023年度から研修生の受入れを開始しています。

「特定行為」とは、医師及び歯科医師が行う診療の補助のことで、研修を修了した看護師は、手順書に基づき特定行為を行うことができます。2024年４月から医師の働き方改革が本格的に開始され、タスクシフト／シェアの観点からも特定行為研修を修了した看護師の活躍がますます期待されています。

富山市民病院では、今年度から新たに２つの区分別科目を受講できるようになりました。今年度の研修開始にあたり、５月22日に開講式を開催し、富山市病院事業局に所属する５名の研修生が参加しました。家城院長や重松看護部長から激励の言葉をいただき、決意を新たに、2025年３月の研修修了を目指します。

市民病院で実施する区分別科目

- ●栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
- ●栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連
- ●動脈血液ガス分析関連
- ●栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ●血糖コントロールに係る薬剤投与関連
- ●創傷管理関連

2024年度新規

04 TOPIC 「新人１か月フォローアップ研修（ボクササイズ体験）」を行いました

５月24日に新人１か月フォローアップ研修を開催しました。働き始めて間もない新人看護師に日頃のストレスを解消してもらうため、職場を離れ同期や理学療法士、薬剤師、研修医ら多職種との交流を行いながら、キックボクシング体験を取り入れた研修でリフレッシュしました。

32名の参加者はアップテンポの音楽に合わせて、キック・パンチ・フックを交え勢いよく身体を動かし、終わった後には息を切らしながらも笑顔が見られました。スタッフが元気に働けるような取組を今後も行っていきたいと思います。

05 TOPIC 前富山市民病院長の藤村隆先生へ名誉院長の称号が贈られました

2024年３月末で市民病院長を退官された藤村 隆先生に、名誉院長の称号が贈られ、称号授与式を行いました。

藤村先生は、2020年４月に院長就任後、当時、未知のウイルスであった新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、帰国者接触者外来の開設や、感染者の入院受入への院内体制の整備に尽力することで、感染症指定医療機関としての責務を果たされました。また、病院の経営改善に向けた取組を推進し、コロナ禍で落ち込んだ医業収益をコロナ禍前の水準以上に回復されました。

このような功績から、名誉院長の称号が授与されました。

06 TOPIC 富山市民病院の売店が移転しました

富山市民病院１階の売店（コンビニエンスストア）が南出入口近くに移転しました。

これまでより店舗面積が広くなり、商品のラインナップも充実しました。通常のコンビニエンスストアの商品のほか、入院や治療に必要となる医療用品も揃えていますので、ぜひご利用ください。店内奥には、飲食スペースもあります。

また、１階のコーヒーショップは、2024年３月末をもって営業を終了しました。当面の間、休憩スペース（飲食も可能）として開放していますので、お気軽にご利用ください。

07 TOPIC 富山市民病院　夏休みわくわく職業体験の参加者を募集します

あつまれ！メディカルキッズ
―病院のお仕事を体験してみよう―

医師や看護師など病院で働く人のいろんな仕事を体験できます。
夏休みの自由研究にいかがでしょうか。

お申込フォームは コチラ

参加費 無料

日　　時	2024年８月４日(日)13時～16時	場　　所	富山市民病院
対 象 者	小学生とその保護者	募集人数	30組 60人
体験内容	**Aコース** ●救急車からの搬送や救急部の初期対応を体験してみよう! ●調剤体験　お薬名人を目指そう! ●いろいろなもののX線画像を見てみよう! **Bコース** ●腹腔鏡手術を体験してみよう! ●心電図や顕微鏡などの検査を体験してみよう! ●血圧や心拍数の測定、赤ちゃんのお世話を体験しよう! ※申込時に希望する体験コースを選択		
申込方法	７月18日(木)までに申込フォーム（二次元コード）から申し込んでください。 ※応募多数の場合は抽選		

Event Information

2024. 7月 → 9月

ふれあい健康講座

申し込み・参加費は不要です。会場へ直接お越しください。
- 開催時間／各回13:30～(30分程度)
- 会場／月:まちなか病院(鹿島町2丁目)、火～木:まちなか総合ケアセンター(総曲輪4丁目)

7 JULY

1 月	がん免疫療法について
2 火	食中毒を防ごう
3 水	熱中症について
4 木	糖尿病ってどんな病気
8 月	糖尿病の検査について
9 火	お口の体操 ～食べる力を鍛えよう～
10 水	大腸がんの見つけ方
11 木	メンタルヘルス ～心の健康～
16 火	転ばないための体力づくり やってみようロコモ体操
17 水	がんの痛みについて
22 月	認知症の基礎知識
23 火	がん何でも相談室ってどんなところ
24 水	★ママと赤ちゃんのための産後エクササイズ

8 AUGUST

1 木	糖尿病の種類について
5 月	いびき、気になりませんか？睡眠時無呼吸症候群のセルフチェックをしてみよう！
6 火	腎臓と見つめ合う ～予防と自己管理～
7 水	その尿取りパットは合っていますか？～軽度失禁パットの種類・選び方～
8 木	子どものけいれん　観察と対応
19 月	認知症の人とのコミュニケーション
20 火	乳がん検診を受けましょう
21 水	肺がんの薬物療法
26 月	超音波検査について
27 火	10分間でできる腰痛体操
28 水	★ママと赤ちゃんのための産後エクササイズ
29 木	貼付剤について

9 SEPTEMBER

3 火	現在流行している感染症対策
4 水	脳卒中を予防する食事
5 木	糖尿病予防のための生活のコツ
9 月	アルツハイマー型認知症
10 火	放射線治療医が語る放射線治療について
11 水	傷の手当
12 木	医師が語るサルコペニアとの闘い！
17 火	検査結果の見方について
18 水	緩和ケアは在宅でもできますよ
19 木	慢性心不全のお薬について
24 火	フットケア ～足からの健康～
25 水	★ママと赤ちゃんのための産後エクササイズ
26 木	～脳卒中について知ろう～ 10月は脳卒中月間です
30 月	肺がんについて

※講座内容は変更になる場合がございます。

★の講座の参加は、事前に電話をお願いします。(持ち物等をご案内します)
TEL.076-422-1112(ふれあい健康講座担当まで)

The Idea of the Toyama City Hospital

富山市民病院の基本理念

使命 MISSION

富山市民病院の存在意義

私たちは医療を通して皆様の健康を守り、豊かな地域づくりに貢献します。

価値観 VALUE

我々が何を大切にしていくかのキーワード

- 信頼 安全・安心、満足、透明性
- 思いやり やさしさ、やすらぎ、おもてなし、親切
- 良質 技術、知識、向上心、科学的
- つながり 連携、チームワーク、わかりやすさ
- 俊敏 迅速、効率的、的確

展望 VISION

将来どのような姿を目指すのか

地域医療に不可欠な信頼される中核病院となる

- 救急医療、災害医療に強い病院になる
- 質の高い急性期医療を担う病院になる
- シームレスな地域医療を築き安心を提供する病院になる

富山市民病院マガジン［きより］／No.113：2024年7月号

発　行　富山市立富山市民病院　広報委員会
〒939-8511　富山市今泉北部町2-1
TEL. 076-422-1112　FAX. 076-422-1371
https://www.tch.toyama.toyama.jp/

富山市立富山市民病院　日本医療機能評価機構